

研究所だより

編集・発行

千葉県長生地方教育研究所
茂原市東郷2300-1

TEL 0475(24)9721・FAX 0475(23)4820
H P <http://www.choseikaikan.or.jp/>
メール kenkyujo@beach.ocn.ne.jp



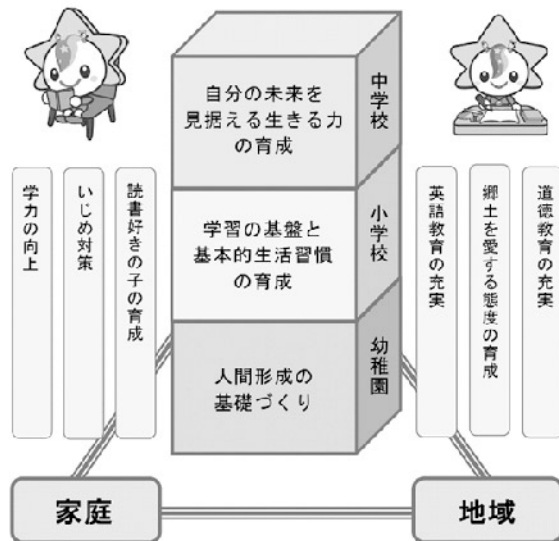
「茂原市の教育を考える」

茂原市長 田中豊彦

はじめに

全国的に進行している少子化により、本市の児童生徒数は、ピーク時である昭和60年頃の約半分に減少しており、今後も減少が続くものと見込まれます。子どもたちが集団の中で多様な考えに触れ、互いに切磋琢磨するため、あるいは学習活動や部活動、学校行事等を充実させるためには、一定の集団規模が必要で、小中学校の過度な小規模化の進行は望ましいものではありません。そこで、本市では現在「茂原市学校再編第一次実施計画」を策定し、小中学校における学校統合を進めています。

また、情報化、グローバル化が加速度的に進展する世の中であって、教育に対する期待は益々大きくなってきています。そこで本市では『茂原市教育施策の大綱』に基づき、「人づくり」を中心的課題と捉え「ふるさと茂原を愛し、豊かな心と高い志を持って未来を主体的に生きる人づくり」を目標に、平成30年度茂原市の教育方針及び重点施策を定め、各種事業を実施しています。下の図はそれを示したグランドデザインです。このうち、茂原市の特徴的な重点施策についてまとめてみました。



「読書好きの子の育成」のために

「第三次茂原市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動の総合的・継続的な推進を図るため、学校と図書館との情報交換等の場を設け、各学校の実態に合わせた読書環境づくりの改善に向けて、相互に協力する体制を整備しています。

また、学校図書館の環境整備や読書活動の中心となる学校司書を配置し、学校図書館を利用した指導の推進を図っています。現在は、4名の学校司書を小学校6校に配置し、データベースによる蔵書管理や「調べる学習」のサポート、読み聞かせ活動などを行っています。



「郷土を愛する態度の育成」のために

小中学校では、ふるさと茂原について学ぶ「茂原学」を実施しています。小学校3年生から中学校3年生までの社会科や総合的な学習の時間に位置付けた学習や茂原市立美術館・郷土資料館学芸員、茂原市役所各課職員等による出前授業を行っています。

また、地域を担う人材の育成をめざし、毎年「茂原市子ども議会」を開催しています。この事業は、市制30周年を記念して始まったもので、隔年で小学生、中学生による子ども議会を開催するものです。本年度は1月16日に茂原市議会議場に市内14校より集まった27名の小学生議員と市長、副市長、教育長、各部長で行われました。多くの傍聴者が見つめる中、小学生議員から鋭い質問事項が出され、茂原市の未来のために活発な討議が行われました。



おわりに

茂原市では、学校が保護者や地域住民等の信頼に依り、家庭や地域と連携して子どもの健やかな成長を育む観点から、学校評議員制度や学校支援ボランティアの活用を図っています。課題解決に向けて、地域全体で子どもたちの健全な成長を担う環境づくりに努めるとともに、併せて開かれた学校づくりを推進していきます。すべては子どもたちのために。

「安全で安心な社会づくりの担い手となる児童の育成」

茂原市立東部小学校

1 はじめに

本校は、茂原市の東部に位置し、国道や駅から近距離ということもあり、一戸建ての住宅や集合住宅が増加している。学校周辺に大型店舗が軒を連ねてきていることもあり、交通量も多い。保護者は会社員が多く、教育に熱心で朝の交通指導などにも協力的である。地域のボランティアによる見守り活動も行われており、児童の下校時には交差点などで安全指導して下さる地区もある。

集合住宅が多いことから、大通りから一本脇道に入ってしまうと人通りは極端に減っている。児童の家の周辺は、日中人がほとんど通らないところも多い。

児童の様子を見ると、朝の集団登校では上学年が下学年の面倒をよく見て、安全に登校してきていることが多い。しかし、学年下校では、安全に歩くことができていない。また、自転車の乗り方でも、理解したことを生かすことができていない。このため、交通安全・生活安全への意識を高める必要がある。

が望ましいのが不確定なこともあった。そこで、本校では、学年でどの程度安全教育の力をつけさせていくべきか考えた。

(1) KYT資料を活用した授業展開

交通安全教室や、日頃からの指導の中で、安全に過ごすための交通ルールはおおよそ理解できている児童が多い。しかし、実際には毎年のように交通事故が起きているのが現状である。児童は「車が来るかもしれない」「人が出てくるかもしれない。」と危険を予測することが少ない。そこで、KYT（危険予知トレーニング）の資料を提示し、どのような危険が潜んでいるのかを考える授業を行った。



低学年では、安全な歩行に重点を入れた指導を行った。見通しが悪い交差点の模擬道路や模擬自動車を作成し、歩行者からの視点・自動車からの視点を体験させた。体験をしながら話し合うことで、安全な停止位置を確認できた。

(2) 体験学習を取り入れた授業展開

低学年では、安全な歩行に重点を入れた指導を行った。見通しが悪い交差点の模擬道路や模擬自動車を作成し、歩行者からの視点・自動車からの視点を体験させた。体験をしながら話し合うことで、安全な停止位置を確認できた。



(3) 地域資源を活用した授業展開

本校の学区には茂原警察署があり、登下校時にはパトロールをしていることも多い。そこで、警察官からの専門的な話を聞く機会を設けることも高学年では必要と考えた。

また、進学を控えている6学年では、中学生を対象に行ったアンケート結果を知らせることで自転車通学での注意喚起を促した。

4 今後の取り組み

- 東部っこ安全カルタの作成
- 交通安全マップ作り
- 地域の道路状況を生かしたKYT資料作り

5 課題

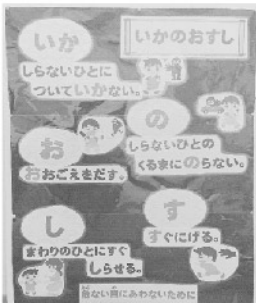
現在の児童の様子を見ると、まだ、一時停止を忘れてしまったり、点滅信号を見落としていたりすることもあり、学習を生かした行動を行っているというには、不十分である。年間計画の見直しをし、定期的にKYT（危険予知トレーニング）を行うなどしながら、さらに安全意識を高め、自分の命は自分で守ることの大切さを実感させたい。

(文責 古山 めぐみ)

2 安全意識を高めるために

(1) 掲示物の作成

児童及び教員の共通理解を図るとともに、視覚的にも環境から安全教育に触れさせるようにした。



【防犯の掲示】
・教室内にも掲示



【廊下歩行の注意喚起】
・職員室前に設置

(2) 交通安全標語

児童一人一人の意識を高めるために、『東部っこ交通安全標語大会』を設けた。児童から交通安全に対する標語を募り、最優秀賞の作品を全校で下校前に唱えるようにした。

平成30年度 交通安全標語優秀賞
『飛び出すな なれた道ほど
みぎひだり』

3 授業での取り組み

(1) 全学年を通した授業の見直し

本年度は、安全教育を重点的に行っている。どの学年でも交通安全への意識付けは大切であり、学級活動での指導も組み込まれている。しかし、他の教科と異なり、どの学年でどの程度の力をつけること



防災教育への取組について

一宮町立一宮小学校

1 はじめに

未曾有の被害をもたらした東日本大震災で、既存のマニュアルでは対応が難しく様々な課題が明らかになった。そこで、学校における防災教育や防災管理の在り方について、より一層の充実が求められている。防災教育については、自ら判断し、行動できる力を育てる指導内容が課題となっており、地震や津波のみならず、あらゆる災害に対して学校の安全対策が課題であると捉え、防災教育の推進を図ることが急務となった。

2 本校の研究について

本校では平成29年度千葉県教育委員会「命の大切さを考える防災教育公開事業」モデル校の指定を受け、様々な防災活動を行い、児童・保護者・地域住民の防災意識をより高めるための取り組みを行ってきた。研究主題を

主体的に行動できる児童の育成
～いのちの大切さを考える防災教育を通して～
とし、平成29年11月22日には防災教育公開授業も展開した。30年度も授業研究と防災活動を昨年度の反省を生かしながら展開し、防災教育のねらいへ迫っていきたいと考え、引き続き防災教育の研究に取り組んできた。

3 防災教育にかかわる活動

地震に対する避難訓練をはじめ津波時の避難訓練や引き渡し訓練や着衣泳などいろいろな活動を取り入れてきた。

- 4月 避難訓練（地震）
- 5月 登校班現地指導（下校時）
避難訓練（地震・津波）三次避難まで
- 6月 救急法講習（職員）
- 7月 着衣泳（全学年）
防災集会（30年度は2月）
引き渡し訓練（29年度）※
- 9月 避難訓練（地震）
起震車体験（29年度）
- 10月 地域合同防災訓練（29年度）
- 1月 避難訓練（火災）

※本年度は不審者対策のため、実際に引き渡しを実施



起震車体験(全学年実施)



学校裏の振武館まで
兄弟学年で避難

4 授業実践

地震や津波についての知識を習得し、自分の命は自分で守ることの大切さに気付かせるために授業実践を全学級で行った。大地震・津波が発生した際に、児童が命を守るために適切な行動をとることができるよう各学年の発達段階に応じた手立てを工夫しながら実践してきた。その一例を紹介する。

学級活動 つなみからいのちを守る (3年)

遊び場で津波が起きた時、より安全な避難場所はどこかを考えさせた。土地の高低差の分かる地図に、遊び場からどこを通過してどこに避難するかを書き込ませ、グループで地図をもとに相互の意見を発表し合った。遊び場からの避難なので一人一人が自分のこととして考えることができた。

道徳 いのちをまもる (1年)

東日本大震災での実話を基にした絵本「はなちゃんのはやあるきはやあるき」を教材とした。児童にとって身近な絵本を発問に合わせて区切りながら読み聞かせした。絵本の主人公に共感しながら考えたり発表したりすることで、非常時だけでなく、普段の生活が「命を守る」ことにつながるという意識をもつことができた。

社会科 震災復興の願いを実現する政治 (6年)

昨年度の総合的な学習の時間では「防災〇×ゲーム」を、本年度は「避難所運営ゲーム」などの活動を行い、地震や津波及び防災に関する知識・理解を深めてきた。それを受けて本単元では、震災直後の市(町)や県、国の政治の働きを調べながら、一宮町の防災設備について考えさせた。災害に強い町にするために自分たちに何ができるかをペアで話し合ったり短冊に書いて全体で意見交換をしたりすることができた。

5 おわりに

昨年度4月には地震や津波についての知識が少なかった児童も、様々な学習をとおして災害の怖さや被害の大きさを知ることができた。一宮町も海岸に面しているため、地震が起きた際、同じような被害が起きるのではないかと仮定して、自分に置き換えて考える姿が見られた。避難訓練に対する姿勢もより真剣さが増した。引き続き授業や訓練等に取り組む中で、児童に「自分の命は自分で守る」という意識をしっかりとらせていきたい。

災害はいつ起こるか分からない。災害時地域との連携・協力は不可欠である。学校と家庭との連携・保護者や地域への啓発活動を今後さらに積極的に進めて地域全体の防災に対する意識をより高めていく必要がある。そして、災害対応のあり方を地域へ発信していくことのできる児童を育てていきたい。

(文責 山内 ゆり)

平成30年度千葉県長期研修生 研究報告



問題解決能力としてのコミュニケーション能力の育成に関する研究
—地域社会における問題に取り組む
単元開発を通して—

茂原市立茂原小学校
教諭 木村 大樹

研究主題について

予測困難な社会を生き抜くコミュニケーション能力が求められている。この要請に応じ、問題解決のプロセスの中でコミュニケーション能力を高める場を組織すること、実態を的確に捉え、それに応じた指導を工夫すること、たくさんの情報を分析し、効果的に組み合わせる情報活用能力を育成すること、の3点を視点として、地域単元を開発する。それによって、問題解決能力としてのコミュニケーション能力の育成を目指し、本主題を設定した。

研究目標

地域社会の問題を取り上げ、その問題を解決するプロセスの中で、情報活用能力を育て、評価と指導の一体化により音声言語の学習の質の向上を図りつつ、コミュニケーション能力を高める場を組織することが、問題解決能力としてのコミュニケーション能力の育成に有効であることを明らかにする。

授業の概要 (第6学年)

- (1) 「6年〇組の話合いの実態を探ろう」(2時間)
実態を把握させることをねらう。まず教師が話合いの音声を「話合い記録」として文字化して評価する。次に、「話合い記録」と、問題点を再構成した「台本型手引き」を手立てとして、実態を振り返り、問題に気づき、改善しようとする態度を養った。
- (2) 「鎌倉校外学習プレゼンテーション」(12時間)
問題解決型のプロセスの基本を身に付けさせることをねらう。「鎌倉校外学習」を題材とし、グループで協働してプレゼンテーションをするという課題を設定した。効果的に話し合う必要性が生じ、プロセスを意識化させ、考えの拡散、収束、決定という条件を制御して話合いを焦点化する方法や、ブレーンストーミングやKJ法といった拡散したり、収束させたりする情報操作の方法を習得させた。
- (3) ミニレッスン(4時間)
意思決定の上で、論点を整理し優先順位を決定することの有効性を理解させた。社会の出来事に関心をもち、多面的に情報を取り出す力を高めた。
- (4) 「みんなでつくろう、私たちの茂原」(26時間)
問題解決のプロセスを営んでいく上で必要な話し合う能力や情報を効果的に活用する能力の育成をねらう。「茂原市をよくする」という現実的で未解決な問題と向き合い、新たな解決策を地域にプレゼンテーションするという課題を設定した。現実社会の条件に応じて、よりよい解決策を生み出すことのできるコミュニケーション能力を高めた。「台本型手引き」と「話合い記録」を基に、見通しと振り返りを意識して話し合うようにさせた。問題の背景にある複雑で多様な情報の収集・整理・関係付けが必要な場を生じさせて、情報活用能力を高めた。



資質・能力を高める効果的な校内研修の在り方
—全国の教員等育成指標の考察から—

長生村立長生中学校
教諭 重栖 充暁

研究主題について

近年、教員の大量退職・大量採用により、年齢構成や経験年数の不均衡が生じ、ベテラン教員から若手教員への知識・技能等の伝達が困難になっている。教育公務員特例法等の一部改正により、平成29年度に「千葉県・千葉市教員等育成指標」(以下「指標」)が策定された。教員の資質・能力とは何なのだろうか。教員にとっての「実り多き学び」が提供される場の一つとして校内研修がある。校内研修における、「指標」を有効活用する方策を考え、教員の資質・能力の効果的な向上を探るべく本主題を設定した。

研究目標

「指標」の特徴と学校現場の現状を踏まえ、教員の資質・能力を高める効果的な校内研修の在り方を追究する。

研究の実際

- (1) 全国の育成指標の収集と分析(47都道府県)
- (2) 予備調査と面接から4回の校内研修を企画・実施し、その様子の観察と分析を行った。
予備調査をもとに4回の校内研修を実施した。
【第1回】えんたくミーティング
・本校の良さをえんたくボードを使って出し合った。
【第2回】ブレインライティング
・「指標」の4つの柱に沿った校内研修を企画した。
【第3回】ワークショップ型校内研修の実施
『教職に必要な素養』⇒電話対応ロールプレイ
『学習指導に関する実践的指導力』⇒タブレットの使い方
『生徒指導に関する実践的指導力』⇒WISC-IVキットを実際に体験
『チーム学校を支える資質能力』⇒アジのなめろう調理実習
【第4回】えんたくミーティング
・これからの校内研修の在り方についてアイデアを出し合った。

研究の結果と考察

校内研修実施後のアンケートや面接調査から、ニーズの掘り起こしに始まる、主体的な研修参加への意欲を高める工夫が必要であることが明らかになった。

経験年数と職責の異なる教職員が混じって行うことができる校内研修は「選択制」と「少人数制」を取り入れると主体的な参加に効果的であると推察された。

研修における「必修」と「希望」のバランスが大切である。

平成30年度千葉県 長期研修生 研究報告



ASD傾向のある児童の主体的活動におよぼす運動効果に関する事例研究
—ムーブメント教育・自立活動の考えを生かした運動プログラムの実践を通して—

茂原市立東郷小学校
教諭 野村 隆之

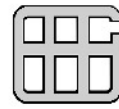
研究目標

児童が主体的に学習に取り組めるようにするために、適切なアセスメントに基づき組み立てられた運動プログラムを実践、検証することで、その有効性を明らかにする。

授業の概要（自立活動）

- (1) 検証期間
「授業者実施」10月23日（火）～11月2日（金）
「担任実施」11月5日（月）～11月20日（火）
※検証の般化を図るため、授業者が実施する2週間と担任が実施する2週間の計4週間実施した。
- (2) 検証対象
自閉症・情緒障害特別支援学級児童
- (3) 検証内容
対象児童のアセスメントの結果から、当てはまる具体的な運動を実施した。対象学級が設定している1時間目の運動の時間の中の冒頭15分間で行う。これまでランニングや準備運動を行っていた時間をプログラムの実施時間とし、プログラム実施後はこれまで同様に縄跳びやボール運動といった活動を行った。具体的運動は時間的制限から2つとした。
また、児童のアセスメントの結果から、目標を①友達と協力しながら、楽しく運動に取り組むことができる。（人間関係の形成、コミュニケーション）②人の話をしっかりと聞き、適切な行動をとることができる。（心理的な安定）とした。
- (4) 評価方法
 - ①行動分析シート
対象児童の1日の行動の中で、担任が困難さがあると感じた行動を記録し、検証前と検証中で比較していく。
 - ②インターバル行動記録法
時間中での児童の行動を好ましいプラスの標的行動と、好ましくないマイナスの標的行動に分ける。15秒ごとに標的行動が何回起こったかを数え、数値化する（1日448インターバル）
 - ③アセスメントシート
2回目のアセスメントを検証後に行う。
- (5) 結果と考察
3種類の行動観察の結果①行動分析シートでは担任が困難さがあると感じた行動が減少した。②インターバル行動記録法ではプラスの標的行動の向上、マイナスの標的行動の減少がみられた。③第2回のアセスメントでは心理的な安定、人間関係の形成、コミュニケーションの区分において困難さの減少がみられた。
アセスメントに基づき、楽しさを中心に据える運動プログラムを行うことで、児童が意欲的に学習に取り組む、学校生活で主体的に活動をする場面が増えたと考える。

各種研修を終えて



教務主任研修会を振り返って

茂原市立西陵中学校
教諭 山崎 菜穂子

今年度初めて教務主任研修会に参加させていただきました。全5回の研修は、講話が中心の「全体研修」と小・中学校別、中学校区別の「部会別研修」と2つの柱で行われました。

全体研修では、「東上総地区の教育的課題と教務主任の役割」「特別の教科道徳の授業と評価」「新学習指導要領に向けての取り組み」について、学ぶことができました。どの内容も現在の学校における、喫緊の課題であり、特に中学校における来年度の道徳の教科化に向けて不安を抱えていましたが、少し光が見えた気がしました。

また、昨年度まで一担任、一教科担任であった私にとって、「新学習指導要領」についても無知なことが多く、自分の教科に関する「アクティブ・ラーニングの実践事例」の書籍などを読んで、教材研究を行うくらいにしか意識していませんでした。しかし、今回この研修に参加する機会をいただき、たくさんの知識や情報を得ることができ、大変有意義であったと感じています。

部会別研修では、「道徳の教科化や新学習指導要領に向けての各校の取り組み」について、情報交換を中心に研修を重ねました。これらのテーマに基づいて「学校で具体的にどのように計画して、進めていかなければならないのか」「校内研修をどのようにもつのか」「通知票や要録にどのように対応していくのか」など、話題は多岐にわたりました。

また、初めて教務主任になった私には、この部会別研修が経験豊富な先輩の先生方から、日々の学校生活での疑問や課題、分からないことを教えていただくとても貴重で、大切な時間となりました。

4月からのこの1年間、初めて経験する仕事ばかりで、目の前のことをただ黙々と取り組むのに精一杯でしたが、本研修を通して、少しずつ教務主任としての自覚や中堅教員としての立場など今までと違った視点から学校や生徒を見つめる意識が生まれてきた気がします。まだまだ力及びませんが、この研修で学んだことと、この研修での出会いを大切にしながら、今後の学校生活に活かし、少しでも生徒と学校のために力を発揮できるようこれからも努力を重ねていきたいと思っています。

最後になりましたが、今年度の教務主任研修会にご指導いただきました講師の先生方や関係者のみなさまに心より感謝申し上げます。

各種研修を終えて



初任者研修を終えて

白子町立白瀧小学校
養護教諭 古市 千晶

初任者として本校に着任し、子どもたちの成長を継続して見守っていただける喜びをかみしめる日々を過ごしています。講師の頃は、少しずつ学校現場での養護教諭の役割を学びましたが、自分の行いが正しかったのか常に不安と隣り合わせでした。そのため、初任者研修で養護教諭の基礎を学びなおし、実践と結びつけて過ごすこの1年間はとても有意義なものとなりました。

校内研修では、初任者指導養護教員の清澤恵子先生に月1回ご指導いただきました。健康診断の準備をはじめ、経験を積まれてきたからこそその工夫を惜しみなく教えていただき、仕事の効率だけでなく子どもたちにとってより良いものを探究する大切さを学びました。また、清澤先生の統計力はすばらしく、研修の際いただいた資料は宝物です。全校児童の健康を管理するうえで、統計はかせませません。この資料をそのまま使うのではなく、試行錯誤しながら自分の型を作り、子どもたちの健康をサポートしていきたいです。養護教諭は学校に1人しかいないので、先輩養護教諭が来校し仕事ぶりを見たとうえでアドバイスをいただける機会は初任者研修しかありません。常に親身に話を聞いていただき、的確なアドバイスをくださった清澤先生には感謝の気持ちでいっぱいです。

校外研修では、総合教育センター研究指導主事の鈴木五月先生を中心に各分野の先生方のご指導を、千葉県内32名の初任者養護教諭とともに受けてきました。年12回ではありますが、どの回も内容が濃く養護教諭としての心得を学ぶことができました。特に鈴木先生から毎回いただく温かい言葉かけは心にしみ、励みとなっていたのは私だけではないと思います。また、東上総教育事務所の養護教諭初任者は2名で、長生地区では私1人なので、校外研修に行くたびに同期の仲間がいる心強さを感じるとともに、他地域・他校種で情報交換でき勉強にもなりました。この貴重な出会いをこれからも大切にしていきたいです。自己研修課題研究では、“歯科保健教育の充実～歯保有率の改善を目指して～”をテーマに取り組みしました。実践しただけで終わるのではなく周囲に評価してもらおう大切さを忘れずにいたいです。

この1年間、初任者研修だけでなく、周囲の先生方や長生地区養護教諭の先生方などたくさんの方に支えられてきました。本当にありがとうございました。今後も初心を忘れず子どもたちのために精進してまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしく願います。



フォローアップ研修Ⅱを終えて

長柄町立長柄小学校
教諭 渡邊 剛之

新規採用になり3年が経ちました。今年度は初めて6年生の担任になり、あっという間の日々でした。子どもたちの成長する姿を近くで感じることができ、とても充実した日々を送ることができました。本研修は、指導力向上や異校種の知識を必要とする私にとって、大変勉強になった研修でした。

フォローアップ研修Ⅰ・Ⅱでは、普段学べないことを学ぼうと思い、計画を立てました。まず校内、校外の先生方の授業を参観させていただきました。先輩の先生方の授業を参観して思ったことは、子どもたちの目線になって授業構成する大切さです。分かる授業をするためには、「どのような発問をすればよいか」、「興味・関心が高まる教材はどのようなものか」などをしっかりと考えて1時間の授業を組み立てる必要があると思いました。子どもたちが「もっとやりたい!」と感じるためには、どんな工夫をすればよいかということを考えることができました。また、良い話し合いの仕方も学ぶことができました。グループでの話し合いをする際に、ただ答えを教えるだけでなく、「このように考えました。」などの説明や「なんでこうなったの」などの疑問を子ども同士で話し合うことが、充実した話し合いだと学びました。そのためには、学級の良い雰囲気が必要だと聞きました。日頃の学級経営が、授業にもつながっていくことも学びました。授業を参観して、一つ一つの授業を今後大切にしていきたいです。

異校種体験では、中学校を1日体験させていただきました。そこで、小学校と中学校との違いを感じました。教科書の字の小ささや学習の難しさ、私自身も分かってたつもりでしたが、改めて小学校とは違うと感じました。さらに、小学校の学習が中学校の土台となるということも学びました。積み重ねがとても大切なので、これから指導する際は小学校のことだけを見据えるのではなく、さらに先のことも考えて指導していきたいです。また、小学校と中学校の連携も大切だと思いました。引き継ぎの際に子どもたち一人一人のことを細かく伝え、子どもたちがスムーズに中学校生活に入っていけるようにしていきたいと思いました。

研修を通して、様々な先生方の協力を経てたくさんのことを学ぶことができました。初任者研修から始まり、この3年間で子どもたちの成長する姿を多く見えました。私自身も、子どもたちに負けないように努力し成長していきたいと思っています。研修で学んだことを、今後の教員生活に活かしていきたいです。

各種研修を終えて



5年経験者研修を終えて

一宮町立東浪見小学校
教諭 吉原 慎司

教員となり6年が過ぎようとしています。右も左もわからず、教育活動を行っていた初任者のころと比べると、少しずつではありますが、先を見とおして教育活動に取り組むことができていると感じています。本研修はまだまだ教員として力量不足な私にとって貴重な研修となりました。

全3回の校外研修では、「主体的・対話的で深い学びをとおした児童生徒の育成」、「特別な配慮を必要とする児童への指導」、「一人一人を大切に作る集団づくり」、「健やかな体の育成と食に関する指導の充実」などの内容について、講師の先生から丁寧にご指導いただきました。お話をうかがう中で、教員は本当に子どもたちが成長する上で、責任のある立場だと痛感しました。そこで今以上に子どもたち一人一人を大切に、どの子どもも居心地のよい学級をつくり、子どもたちが「期待の登校・満足の下校」ができるようにしたいと思いました。

また、能動的自立研修ツールを活用した研修では、これまで自分自身が行ってきた教育活動を客観的に見つめ直すことができ、今の自分に教員として足りていない資質・能力に改めて気付くことができました。作成した研修計画書をもとに同期の先生方と、日頃の教育実践について話し合い、他の先生方と日々の教育実践や悩み、苦労などを共有することができました。そしてこれまでの自分にはなかった新たな視点に気付くことができ、とても有意義な研修となりました。これからも同期の先生方と切磋琢磨し、高め合いながら、日々の教育実践に取り組んでいきたいと思っています。

この研修を終えて、今まで自分が行ってきた教育活動をあらためて振り返ることができ、教員として、これからどのように教育活動を進めていきたいか考えるきっかけとなりました。教員は「授業が勝負」といわれています。子どもたちが興味・関心をもって学習に取り組むことができるよう、学習教材や発問、板書の工夫などを行い、子どもたちから「わかった」「楽しい」「もっとやってみよう」といわれるような授業を目指し、日々の学習指導を進めていきたいと思っています。また自分はこの教科・領域では誰にも負けないぞというものをつくることできるように研修に努めたいと思っています。

最後に、今回の研修で明白になった課題をステップアップ研修のテーマとして、今後も精進していきます。お世話になった講師の先生方、ありがとうございました。



ステップアップ研修を終えて

長南町立長南小学校
教諭 畑山 美香

教員生活も7年が経とうとしています。まだわからないこともあります。少しずつ仕事を任されたり、後輩にアドバイスをしたりする立場となったことで自分のやるべきことが段々と見えてきました。

ステップアップ研修では、「特別な教育的支援が必要な児童の理解とその指導」「学校経営参画意識の向上—ミドルリーダーに向けて—」「教員としての視野を広げる—現代の教育課題についての意見交換」などの内容について講師の先生方に指導していただきました。「特別な教育的支援が必要な児童・生徒の理解とその指導」では、「困る子」ではなく、「困っている子」と見ることが大切だと教えていただきました。また、困り感を持っていないように見える子も、実は学校として教育的な支援や配慮、時には福祉的な支援が必要な児童がいるということ学びました。特別な教育的支援が必要な児童に対して、実際に使っていた掲示物や提示物の一例を見せていただきました。それは、通常学級にいる児童に対しても有効である物で、とても参考になりました。グループ別意見交換では、「家庭や地域等と協働した教育の推進のために何ができるか」という課題で話し合いをしました。各学校で行っている家庭や地域との連携体制などを出し合い、その課題について意見交換をしました。日常取り組んでいる実践課題や成果をもとに、課題を解決しようとする具体的な推進や改善のための方策・提案について討議しました。どの先生方も自分の考えをしっかりともち、とても良い意見交換の場となりました。

課題発表会では、学校や自己の課題を研究テーマにし、目標を立て実践したことをグループで発表・協議しました。学校や学級の児童の課題を取り上げ、少しでも児童のために工夫した実践に取り組みました。各学校、学級で課題は違うものの、実際に参考になる取り組みばかりでした。良いアイデアをたくさん聞くことができたので、参考にして取り入れたいと考えています。また、一人一人の実践発表に対して、指導主事の先生に的確なアドバイスをいただき、より考えを深める時間となりました。

今回の研修では、現在の自分を振り返る、とても貴重な研修となりました。これからはミドルリーダーとして、自分の役割だけでなく、広い視野で周りを見て仕事をしていきたいと思いました。後輩の見本になったり、的確な助言をしたりできるような教員になりたいと思っています。また、「すべては子どもたちのために」という言葉を胸に、常に学び続ける向上心を持ち、先輩方からの指導や様々な研修を通して、成長し続ける教員でありたいと思います。

各種研修を終えて



中堅教諭等資質向上研修を終えて

長生村立長生中学校
教諭 小関 亮子

教員生活も早11年目を迎え、今年度は中堅教諭等資質向上研修に参加させていただきました。

研修に参加させていただいたことで、自身の指導力向上だけでなく、学校運営への積極的な関わりや若手育成に携わる立場として期待されるようになったということを実感しました。10年という年月が経ち、研修を共にしたそれぞれの先生方が責任のある立場となり、経験ある一人の教師として意見を述べられていました。それらの様々な意見を伺うたびに、「学校のために何ができるのだろう」と考えさせられ、課題をもって研修に臨むことができました。

研修では、生徒指導、新学習指導要領施行へ向けての学習指導、更に道徳の教科化に向けてという内容が主たるものでした。中でも学習指導については、「主体的・対話的で深い学び」を重点とし、講師の先生からの様々な問いかけを中心に活発な議論ができたと思います。昨年度から長生村で実施している保小中一貫教育として、村内全小中学校でユニバーサルデザインを取り入れた授業を行っています。また、本校では昨年11月に学力向上交流会公開授業を行いました。それらの取り組みや今後の課題についての発表をする、校内研修では気付いていなかった点について意見をいただき、今までの指導について振り返って考えることができました。また、道徳の研修では、参加した一人一人の先生方の疑問点に対し、講師の先生からアドバイスをいただいたり、教科化へ向けて「考え・議論する道徳」の具体的な授業案や所見についての指導もいただいたりすることができました。このような研修を通し、自分が普段行っている指導においてグループで議論を重ね、様々な視点から意見をいただくことによって、生徒へのよりよい指導法が見つかるのだと感じました。

体験研修では、農業を体験させていただきました。季節によって、育てる作物も違い、色々な悩みがあることを知りました。特に除草作業は、炎天下の中、根気のいる作業でした。農家の方のご苦労が身に染みましたが、あきらめずに一本一本抜いていくことは、生徒への声かけと同じことだと感じました。普段とは違う環境の中で、改めて目の前の生徒の力を引き出すためにどのような指導が必要かを考えさせられました。

この中堅教諭等資質向上研修において、様々な出会いの中で、自身の考えだけでは気付かないことを教えていただきました。日々、自らが学び続ける姿勢を常に持ち続け、後輩たちへ学んだことを伝えていけるよう、今後も研鑽を積んでいきたいと思っております。



スクールリーダー研修を終えて思うこと

睦沢町立睦沢中学校
教諭 近藤 祐子

周囲に心配ばかりかけさせた新採時、「初任者研修」は教員としての様々な手だてを教えてくださいました。子育てと仕事の両立でばたばたしていた時は「5年研」と「10年研」が、そして、特別支援学級をまかされたときには「特別支援学級新任研修会」がと、その時々に必要な知識や情報を学ぶことができました。

教師は現場での実践から多くの事を学び、これまで積み重ねた経験が、これからの自分を一番に支えてくれる力になるのではないかと、考えています。しかしそう考える一方で、実践で得た経験だけではなく、独りよがりの教育活動になってしまふ恐れがあるのではないかと考えます。

実践で得た経験を、節目節目でやってくる様々な研修が軌道修正をしてくれることで、確かな力にかえてくれるのだと思います。

「スクールリーダー養成研修」は、私にどんな力をつけなさいといっていたのだろうかと考えてみました。

夢を実現させたにも関わらず、いざ、働き始めてみると自信のなさや押しつぶされ、「先生になって良かったなあと思える瞬間なんてあるんですか?」と不躰な質問を投げかけた私に、「あつたよ〜。」と優しく勇気づけてくれたリーダーがいました。仕事と子育てとの両立に行き詰まり、校長面接で退職を申し出た私に「あともう少しの辛抱だ。頑張ってみろ。」と励まし、校務分掌などを配慮してくれたリーダーがいました。「近藤先生はいつもニコニコしていいね。幸せな証拠だ。」と、生徒指導に疲れて険しい顔をしていたであろう私をおだてて、その気にさせてくれたリーダーがいました。

この原稿を書くにあたって振り返ってみると、私はなんと多くのすてきなリーダーに出会い、お世話になったことだろうということに気付かされました。

スクールリーダーに大切なことは、子どもたちへの教育活動はもちろん、同僚が、公私ともに充実し、元気に仕事ができるようにサポートしてあげられることではないかという考えに至りました。

グイグイ周囲をひっぱっていくリーダー、縁の下の力持ち的な影のリーダー、様々な形のリーダーがいます。そのような中で、私はどんなリーダーになれるのか?この研修で学んだことの意義を噛みしめながら、それを模索していきたいと考えています。

最後に、私たちのために多種多様な講義を設定してくださった研修担当の先生方と、私個人としましては、早く研修に参加させてくださった睦沢中学校の校長先生をはじめ先生方に深く感謝いたします。

掲載順につきましては、順不同とさせていただきます。
(敬称略)

教育功労表彰

- 地方教育行政功労者表彰
一宮町教育委員会 前教育長 町田 義昭
- 文部科学大臣優秀教職員表彰
(学習指導の部)
長生村立八積小学校 教諭 益子 尚子
- 千葉県学校体育功労者表彰
一宮町立一宮中学校 校長 市原 茂和
- 教育奨励賞顕彰(千葉県教育委員会)
長生村立一松小学校 教諭 長野 季子
- 長生地区市町村教育委員会連絡協議会表彰
茂原市立富士見中学校 校長 御園 正二
茂原市立南中学校 校長 片岡 正直
茂原市立本納中学校 校長 古山 茂和
茂原市立二宮小学校 校長 濱田 利子
茂原市立五郷小学校 校長 片岡 学
一宮町立一宮中学校 校長 市原 茂和
一宮町立一宮小学校 校長 川嶋 静雄

- 長生村立高根小学校 校長 御須 友子
- 白子町立白子中学校 校長 野口 一展
- 長柄町立長柄中学校 校長 小川 厚生
- 千葉県メディアコンクール「優秀賞(千葉テレビ放送賞)」受賞
長生郡市広域市町村圏組合教育委員会
視聴覚教材センター教材開発委員会
- 睦沢町教育委員会教育功労表彰
睦沢町立睦沢小学校 教諭 東條 恵子
- 白子町教育委員会教育功労表彰
白子町立白瀧小学校 教頭 深山 雅彦
白子町立白子中学校 教諭 渡邊 政江
- 長柄町教育委員会教育功労表彰
長柄町立長柄中学校 校長 小川 厚生
長柄町立日吉小学校 教諭 齊藤 薫
- 長南町教育委員会教育功労表彰
長南町立長南中学校 教頭 川野 治一